

地域医療連携室だより

ボツリヌス療法

神経内科部長 田中 一

「眼瞼痙攣」や「片側顔面痙攣」そして「痙性斜頸」に対する新しい治療法が日本でも広まりつつあります。ボツリヌス毒素を注射するもので、対症療法ながら少ないリスクで大きな効果が得られることから注目を集めています。当院でも定期的(毎週金曜日午後)に同療法を行っていますので紹介致します。

眼瞼痙攣は間代性・強直性の攣縮が両側の眼輪筋に不随意に反復出現する疾患で、究極的には開瞼障害を来し機能的失明状態に至る原因不明の疾患です。片側顔面痙攣は顔面神経の被刺激性亢進により顔面筋が発作性、反復性かつ不随意に収縮する疾患で、原因としては頭蓋内の血管が顔面神経を圧迫する事が多いと考えられます。痙性斜頸は頭頸部の筋緊張異常により頭位に異常を生じる疾患で、患者によって様々な要素の頭位異常が組み合わさって出現します。ボツリヌス療法はA型ボツリヌス毒素の局所的神経筋伝達阻害作用により筋を弛緩させ効果を示します。1回の注射で効果は3～4ヶ月続き、長期観察においても良好な全般改善度を示すことが確認されています。数ヶ月おきに注射を繰り返す必要はありますが、患者さんの身体的負担や副作用を考慮するとボツリヌス療法が第一選択の治療法と思われます。

しかしこのような医療情報に対する患者のアクセスは十分とはいえず、適切な治療機会を得るためにもかかりつけ医等患者に身近な先生方の適切な指導・助言がポイントと思われます。

〒950-2087 新潟市西有明町1番27号

社会福祉法人 新潟市社会事業協会 信楽園病院 地域医療連携室

TEL 025-267-3280 (直通) FAX 025-267-3320 (直通)

E-mail main@shinrakuen.com